作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	島田　英之
所属機関名	工学部　情報工学科
職位	教授
在籍年	３１年

教育の責任
工学部情報工学科に所属しており、画像処理、CG、マルチメディアという多くの学生にとって身近なメディア系の知識に関する専門教育と、プログラミング、システム開発、データベースという IT 分野のものづくりに不可欠な知識と技能の教育を担当している。身近な興味を入り口に学びを深め、知識と技能を身につけて社会に貢献してほしいと考える。
教育の理念
大学での様々な学びが社会の役に立ち、自己を含む多くの人の幸福につながることを実感してもらいたい。社会で新たなことを学ぶ必要が生じた時や、想定外の問題に直面した時に、大学での経験を思い出して前向きに挑もうとするマインドを身につけてほしい。そのような学びを講義にて教授し、ゼミ活動で相互に学び合う機会を提供したいという想いを持っている。
教育の方法・方針
教育で人を変えるのではなく、伸ばすという謙虚さを持ちたい。座学だけではなく、学んだ理論を実際のプログラミングやデータベース操作などの具体的な手段で自ら確かめ、意義や価値を実感してもらう。難しい内容については教授法や題材について十分に検討し、「腹落ち」といえるほどの体感的な理解にまで至れるように全力を注ぐ。ゼミ活動については、研究の遂行や報告に終始することなく、安心・安全な場として学生間の相互理解を深めてもらうために、自由なプレゼンテーション、ペアワークによる傾聴、グループ対話などの活動を積極的に行う。
教育の成果
担当講義の授業アンケートでは、達成目標の達成度、教員の熱意、総合的な評価ともに、継続的に高い評価を得ている。アンケートの自由記述欄には、難しかったが面白かった、難しかったが成長を実感できた、という意見があり、難しい内容を理解に導くための教授法や題材の工夫の成果が表れている。ゼミ活動についても、学生が相互の関係の中で意欲を高め、卒業研究成績（指導教員以外による客観評価も含む）、就職実績が良好に維持できている。
今後の目標
教育 DX の進展にともなって、これまでの教育法を点検し、従来の資料配付やフィードバックといった作業をデジタルに置き換える以上の効果を生み出したい。さらに、講義中のグループワークやゼミ活動の活性化を図り、多様な人々の中で自らの特性や長所に気付き、自己肯定感の高まりにつながる機会を増やしたい。
根拠資料
シラバス、講義テキスト、配布資料、授業アンケート結果、成績資料、ゼミ活動の学習記録簿、企業内定報告書